

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 49

令和7年【2025】
6月1日 発行



特集 今 子どもたちの体力は

Contents

P.2 まんのう町学校教育実践指針
P.3 希望に満ちた新たな出発

P.8～9 園・学校ウォッチング
高篠小学校・満濃南こども園

P.10 ホットニュース
P.11 シリーズ「声」

希望に満ちた新たな出発

卒業式・修了式

中学校	3月14日
小学校	3月18日
こども園	3月19日

こども園103名が修了、小学校158名、
中学校172名が卒業しました。



証書授与



厳肅な雰囲気の中で



新入生入場



たくましく成長しました



伸びた背中に成長を感じます



教科書や通園・通学帽子
をいただきました



旅立ちの時です



お祝いのアーチをくぐって



入園おめでとう!



町長お祝いの言葉



卒業生退場



新入生退場



凛々しい表情で、
式に臨んでいます

こども園73名が入園、小学校124名、
中学校156名が入学しました。

中学校	4月8日
小学校	4月9日
こども園	4月8日
※満濃南こども園4月7日	

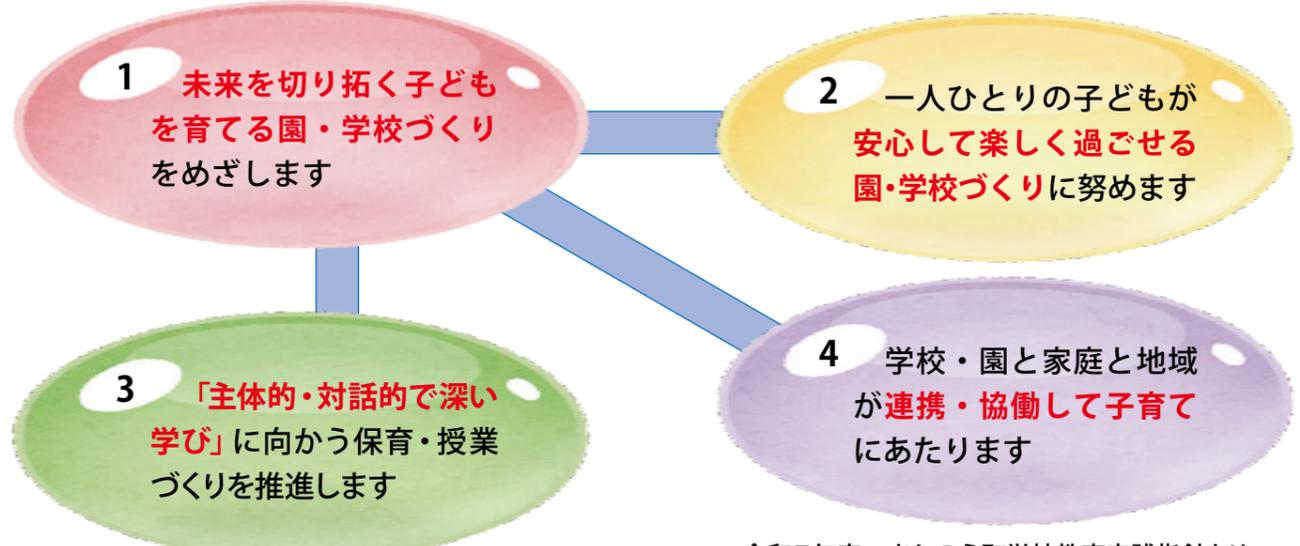
入学式・入園式

まんのうの教育

令和7年度の重点

自立へ向かう教育

～ 協働を幹にして学びをつくる ～



令和7年度 まんのう町学校教育実践指針より

教育委員会では、教育に当たって大切にしたいことを「学校教育実践指針」として示し、町内すべてのこども園、小・中学校が同じ目標に向かって進むようお願いしています。各こども園、小・中学校では、今年度も、豊かなつながりと温かなまなざしのもとで、子ども一人ひとりが自立に向かう力を身につけていけるよう取り組んでいきます。



お花見散歩



一年生を迎える会



園内遊び



米作り体験



縦割り道徳



タブレットを使って説明

今 子どもたちの体力は？



小5の町平均は男女ともコロナ禍前より向上している

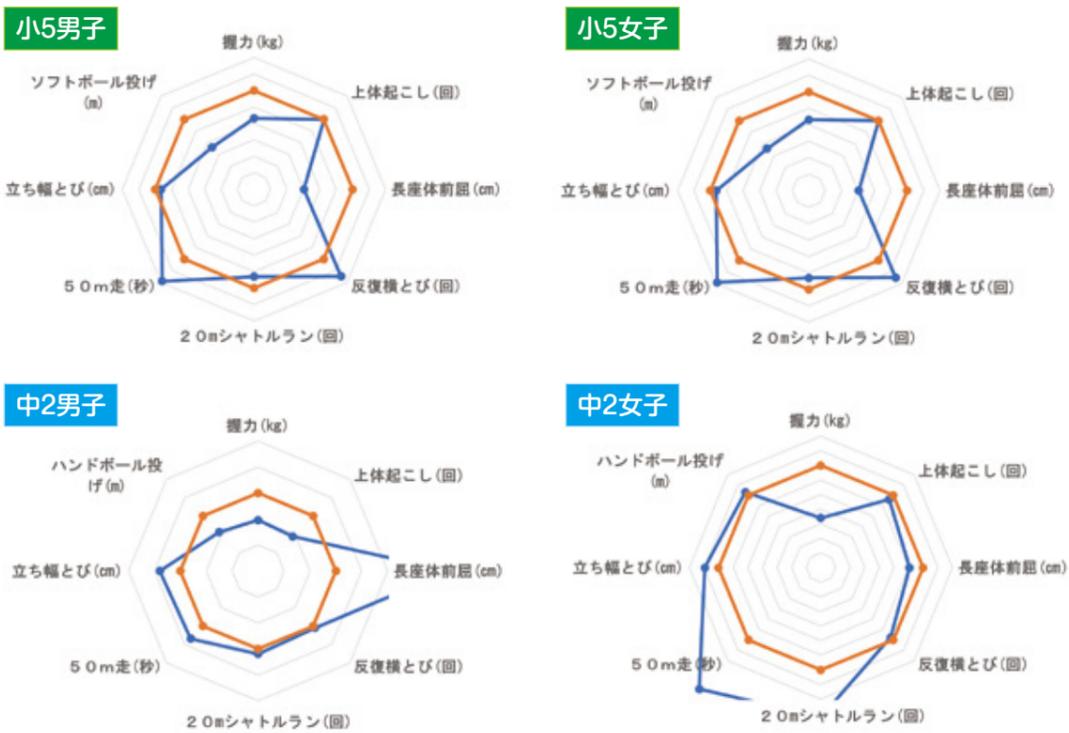
小5女子の町平均はコロナ禍後、全国・県平均よりも高くなっている

中2男子の町平均はコロナ禍後、全国・県平均よりも高くなっている

中2女子の町平均は、H29、R4を除いて、全国・県平均よりも高くなっている



令和6年度全国体力テストの種目別結果



体力は、「運動するための体力」と「健康に生活するための体力」に分けることができます。今号では、町内の子どもの「運動するための体力」の状況についてみていきます。

昨年12月、スポーツ庁が全国体力・運動能力調査(全国体力テスト)※の結果を公表しました。新聞では『県内コロナ前水準戻らず』の見出しで掲載されました。それによると、「県内の小学5年、中学2年の合計点がいずれも女子が過去最低となった。新型コロナウイルス禍での行動制限などの影響を受け、子どもたちの体力は近年、低下傾向で歯止めがかかっていない。」とのことでした。

では、町内の子どもの体力の現状はどうなのでしょう。町内の子どもの体力テストの結果を調べてみました。

※ 「全国体力・運動能力調査(全国体力テスト)」とは、全国の小学5年生、中学2年生を対象に、平成20年度から実施しているスポーツテストのことです。(令和2年度はコロナ禍のため未実施)

左のレーダーチャートは、令和6年度のまんのう町内小学5年生と中学2年生の全国体力テストの種目別結果を表わしたものです。県平均を50としたときのまんのう町内の児童・生徒の値を青い線で結んでいます。

令和6年度の種目別平均記録を県平均と比較すると、走力、敏捷性は優れていますが、筋力、投球能力に課題があることがわかります。



体力向上のために



ジャンプ!



しっぽをとるぞ〜



よーいドン

小・中学校では体力テストの結果を分析し、子どもたちの体力向上に取り組んでいます。体育の授業の充実、外遊びの奨励、異学年交流活動、体育大会、放課後陸上練習への積極的参加、運動部活動や家庭との連携、運動環境の整備などです。このような取り組みが、まんのう町の子どもたちの体力を支えているのです。

体育の授業の充実

学年段階を考慮しながら、準備運動にトレーニングの要素を取り入れたり、めあてをもって運動に取り組めるように工夫したりしています。



自分に合う練習の場を選ぼう



チームや自分のめあてを決めて取り組む

こども園では

園児は、遊びを通して生涯にわたって必要な運動の基となる意欲や多様な動きを身につけています。



せーの みんなで大縄跳び



キッズサッカー巡回指導



うまくよけるよ(ころがしドッジ)

体育大会の実施

各小学校では、子どもたちがめあてをもって取り組めるような工夫をしています。



水泳大会



マラソン大会



イメージに合うダンスを考えよう



パスをうまくつなごう

色別対抗玉入れ



休み時間の活用の工夫

業間休みや昼休みに、児童会や委員会の主催でいろいろな運動遊びを実施している学校もあります。



縄跳び大会



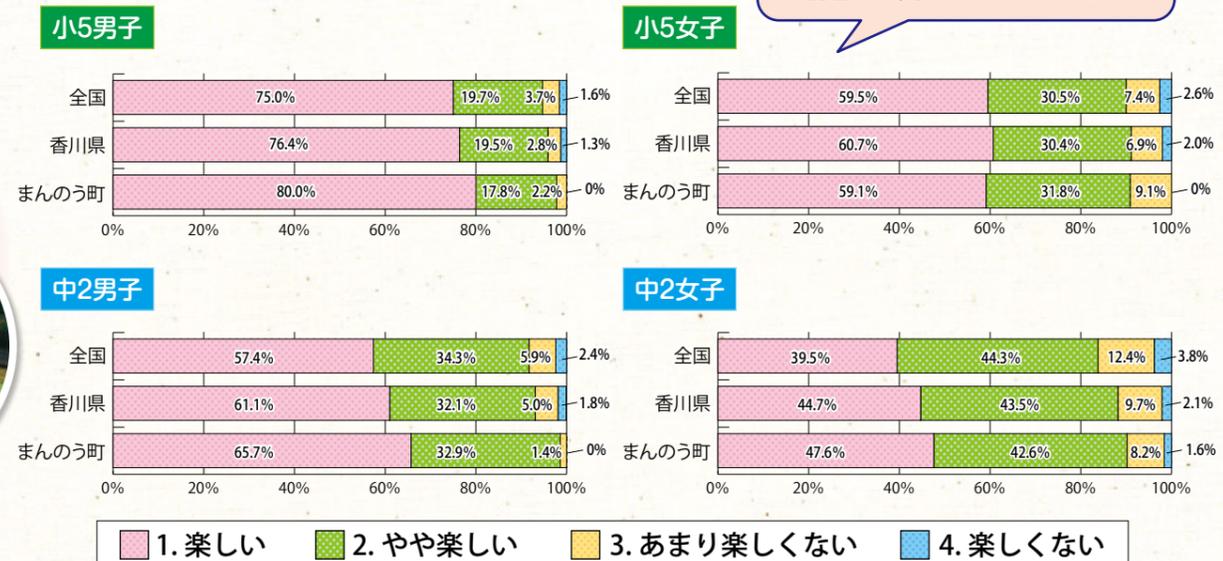
まどあて



綱引き

Q:体育の授業は楽しいですか。(体力テスト質問紙調査)

まんのう町は、全国や県と比べて小・中学校とも「楽しい」「やや楽しい」と回答している児童生徒の割合が、高くなっています。



今年度、高篠小学校は、県教育委員会から「読解力向上推進モデル校事業」の指定を受けています。「読解力」を教科に限りず、情報を取り入れ理解してしっかり考えることと捉え、「考える」を合言葉に、教育活動に取り組んでいます。

しみじみ

地域のたくさんの方が、高篠小学校を応援してくれています。昨年度は、「やなぎもちづくり」「全校高篠かるた大会」などが、数年ぶりに復活しました。また、地域の方に「卒業おめでとうお茶会」を開いていただき、卒業生は、温かい気持ちで卒業していきました。



卒業おめでとう茶会



やなぎもちづくり

今年度は、地域との連携をさらに進めます。地域の方と一緒に防災教室や七夕会なども行いたいと思います。「地域とつながり 地域に学び 地域に発信する地域学習」の充実を行うことで、支えてくれている、応援してくれている方々の気持ちを、しみじみと考えられるようにします。自分が深く心に感じた思いを、次は、友だちや下級生、周りの人に返していけるようにしていきます。

合言葉は「考える」



高篠小学校

授業で考える

自分で考える授業を大切にしています。左の写真は、昨年度3年生の図画工作の授業「キミに決めた！高篠モンスターを生み出そう！」の作品です。流木を「あれあれ。何に見えるかな」と想像し、工夫して釘をうって、想像上のモンスター「タカモン」を作りました。写真に撮ってタカモン図鑑にし、学校図書館に置くと、タカモン図鑑を借りたいという子どもまで出てきました。今年度も主体的に自分で考えて学習する授業をめざします。そのために、私たち教員は、子どもが自ら考えたいくなるような授業のしかけを一生懸命に工夫していきます。



学校図書館の展示



タカモン図鑑

高篠小キャラクター



- めざす教師像
- 児童主体の活動を仕組む
 - 児童に寄り添う
 - 家庭や地域、同僚とつながる
- 「仕組む」「寄り添う」「つながる」を大切に、全教職員で取り組みます。



運動会



応援合戦(長縄大会)

行事で考える

行事などでも、自分で考えることを大切にします。昨年度は、初めて長縄大会に応援合戦を取り入れました。全校生が色別縦割り班に分かれ、6年生が応援合戦の言葉を考え、下級生と一緒に振り付けを決めたり、大きな声で応援をしたりしました。

運動会でも応援合戦を行ったり、プロジェクトチームを作りダンスやリレーの練習を考えたりしました。新入生歓迎会などの色別班活動も、自分たちでしっかり考えて計画しました。

自分で考えることは、「わくわく」を生み出します。これから、どんな「わくわく」が生まれてくるのか楽しみます。

あれあれ

自分で考える授業を大切にしています。左の写真は、昨年度3年生の図画工作の授業「キミに決めた！高篠モンスターを生み出そう！」の作品です。流木を「あれあれ。何に見えるかな」と想像し、工夫して釘をうって、想像上のモンスター「タカモン」を作りました。写真に撮ってタカモン図鑑にし、学校図書館に置くと、タカモン図鑑を借りたいという子どもまで出てきました。今年度も主体的に自分で考えて学習する授業をめざします。そのために、私たち教員は、子どもが自ら考えたいくなるような授業のしかけを一生懸命に工夫していきます。

今日も風を持って！

広い園庭や長いテラス、子どもたちはさまざまな場所自分なりの思いをもち、遊びを繰り返しています。子どもたちが楽しむ姿から、その内面を読み取り、思いに寄り添い、一緒に楽しみながら、子どもたちとの毎日を丁寧に過ごしていきたいと思っています。

冬休み明け、こども園では昔ながらの伝承遊びを経験することを大切にしています。かるた、福笑い、凧揚げ、風船の羽根つきなど、さまざまな正月遊びを楽しみます。

0歳から2歳児クラスでは、スーパーのレジ袋やビニール袋にひもを付け凧揚げを楽しみました。正月遊びとして経験した凧揚げでしたが、3月になっても戸外に出るたびにレジ袋の凧を持って行く子どももいます。風がない時は引きずって、風が吹いてくると喜んで片手を挙げて「トコトコ」と走ります。小さいながらも風を感じながら楽しんでる姿がとても微笑ましく、思わず笑みがこぼれます。他の遊びが気になり凧が園庭にポツンと取り残されていることもありませんが、そんなことも丸ごと受け止め、子どもがやりたいと思う遊びに丁寧に付き合っていく保育者の存在はとても大切だと感じています。



たかーい



風が吹いた!

次は、あそびまわ！

一輪車の台数を増やし、一輪車置き場を5歳児保育室の近くにしました。根気よく、あきらめずに一輪車の練習をする5歳児です。やりたいことに夢中になり、できるようなったことが大きな自信につながっています。転んで膝を擦りむいても平気です。血がにじんだ絆創膏は子どもたちにとって勲章のようで、誇らしそうに見せてくれました。

始めは練習スタンドを使ったり、支えてもらったりしながら練習を繰り返していました。少し乗れるようになり保育者の手から離れると、テラスの柱につかまりながらの挑戦が始まりました。赤、黄、青の柱が長いテラスの端から端まで立っています。柱につかまりながら「黄色までこれた」「次は青までやな」と少しずつ走行距離を伸ばしていきました。子どもたちにとって柱を使うことは必然だったようです。保育者みんながその姿を目にし、励ましや応援の言葉をかけていました。カラフルな柱の柱、たくさんの温かいまなざしと言葉が、子どもたちの意欲をさらにかき立てる手助けとなったようです。

子どもの行動には意味がある!
～ 思いをていねいに読み取りながら ～
満濃南こども園



ここまで来れた 次は...



ほくも三輪車に乗れるよ!



みんなでツーリング

子どもたち一人一人が「伸びようとする力」をもっています。やりたいことをやりたい時にやれた時、子どもは伸びていくのだと思います。

私たち保育者は、柔軟な感性で子どもの行動の意味を丁寧に探りながら、その力を発揮できるように見守り支えていきたいと思っています。



第35回 スクールソーシャルワーカーから見た子どもたち

町教育委員会には、児童生徒の抱える問題を解決するために、学校や家庭、地域の関係機関をつなぐスクールソーシャルワーカーという専門職が2名配置されています。そんなスクールソーシャルワーカーの声を聞きました。

みんな それぞれ ステキだよ

スクールソーシャルワーカーは、小・中学校を巡回して子どもたちの様子を見たり、面談や家庭訪問を行ったりする中で、困りごとを一緒に考えるお手伝いをさせてもらっています。

学校を巡回していると、たくさんの子どもの様子やふれあう機会があり、その子その子の方法でコミュニケーションをとってくれます。

子どもたちとのふれあひの中で、様々な学びや気づきがあります。その中で意識していることは、「いいな、ステキだな」と思ったことを相手に伝えることです。

子どもたちと一緒に遊んでみると、「こういうことができて楽しかった」「こういうことをしてくれて嬉しかった」と気持ちを伝えてくれることがあります。ポジティブなことを、まっすぐに伝えてくれるのです。また、子どもたちは、友だちのいいところ探しの名人です。帰りの会で、友だちのいいところを発表しているのを聞いてみると、「そのポイントは気が付かなかった!」「そんなところまで見てくれていたのか!」というところにも気づき発表していました。もしかすると行動した本人にとっては、何気なくしたことや当たり前だと思っていることかもしれないかもしれません。でも、伝えてくれたことで、その行動やできごとは、自分にとってもキラキラしたすてきなことに变身すると思えました。子どもたちは、みんなが幸せな気持ちになることを自然にしているのです。これから、子どもたちから様々なことを学んでいきたいです。

生活の中では、きちんとしなければ、頑張らなければ、気が張って疲れるときもあるかもしれません。そんなときは、ゆっくりのんびり息抜きし、一緒に過ごしましょう。

スクールソーシャルワーカー 田岡 玲



子どものもつ力と可能性 ～信じていることの大切さ～

スクールソーシャルワーカーの活動を始めてから、3年目を迎えました。

町内の学校や園、いくむ（適応支援センター）を訪問した際には、いつも子どもたちが明るく迎えてくれます。授業中や休み時間、給食時、委員会活動の時間など、学校生活の様々な場面で、子どもたちはいろいろな表情を見せてくれます。子どもたちが、目の前のことに真剣に全力を注ぐ姿に元気をもらっています。

そんな頑張り屋の子どもの姿ですが、友だち関係や勉強、部活動のことなどで悩んだり、不安に思ったりストレスを感じたりすることがあります。私たちは、子どもの抱える悩みを家庭や周囲の大人にどのように理解してもらおうかを、子どもたちと一緒に考えています。面談だけでなく、日向ぼっこをしながら、体育館で遊びながら、一緒に給食を食べながら話をすることもあります。

どのように子どもたちの課題に向き合えばいいのか、日々試行錯誤しています。が、ついつい解決を急ぐあまり、先回りして言ってしまうことがあります。そんな時、子どもたちから「本当はこうしたい」「変えていきたいんだけど...」と、思いもよらない言葉が返ってきます。子どものもつ力や可能性に、はっと気づかされる瞬間です。子どもたちから、信じていること、時には立ち止まる勇気をもつこと、歩調を合わせていくことの大切さを学びました。

いつものように小学校を訪れたある日、「また中学校来るんやろ。何かあったら相談する」と、卒業間近の6年生が声をかけて来て、笑顔で去っていききました。こども園、小・中学校と切れ目なく、様々な経験を共にしながら、成長を見続けられることに喜びを感じています。

これからも、保護者と一緒に子どもたちの成長を見守るとともに、希望や不安を分かち合える身近な存在になれるように頑張っています。

スクールソーシャルワーカー 谷本 和也



まんのう町では毎年度最終日に、退職と町外の学校へ転出された先生方の合同離任式、翌年度初日に新規採用と町外の学校から転入された先生方の合同着任式を行っています。



町合同離任式
3/31 満濃中学校ランチルームにて

子どもたちが大変お世話になりました



小・中学校合わせて4名の教職員が、令和6年度末をもって退職されました。

合同離任式では、退職及び町外へ転出する教職員を、合同着任式では、着任した教職員を各校の校長が紹介しました。

着任式では、紹介後、末久生涯学習課長が、まんのう町の概要を説明しました。

新学期スタート!



町合同着任式
4/1 満濃中学校ランチルームにて

子どもの心に温かく寄り添った指導をお願いします



早期支援教育センター たむ

仲南支所2階に移転しました!

主な業務

- 乳幼児から中学生までの成長発達上のつまずきや困難のある子どもの保護者に対して、発達相談や就学・進級・進学などに関する相談支援
- 町内の教職員に対する相談支援

TEL:75-4022 FAX:75-4018





風に向かって
走れー!

満濃南こども園

編集後記

昨年10月、新聞にスポーツ庁調査をもとに昭和39年度（祖父母世代）、平成5年度（親世代）、令和5年度（現在）の10歳の体力テストの記録を比較したデータが掲載されました。（右のグラフ参照）身長と体重は男女とも現在の方が大きかったですが、ボール投げは祖父母世代が、握力や50m走は親世代が、反復横跳びは現在が高い記録となっています。体格が異なるので単純に比較することはできませんが、体格が大きくなると体力テストの記録が向上すると考えると、祖父母世代と比べて現在の子どもたちの体力は低下しているのではないかと考えられます。

現在の子どもたちの体力低下の原因の一つとして、「3つの間」が減少していることが言われます。「3つの間」とは、「仲間」「空間」「時間」のことです。

「仲間」…少子化により、子どもの数が減ったこと。また、子どもが忙しく、自由に一緒に遊ぶ仲間を探せないこと。

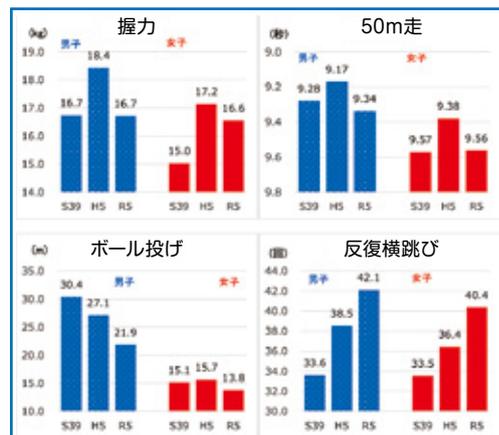
「空間」…自由にボールを投げたり、思いっきり走ったりする場所が減っていること。

「時間」…塾や習い事が増えて、自由に遊べる時間が減っていること。です。

アニメ「サザエさん」のカツオくんのように、帰宅後、運動用具をもって公園に遊びに行く機会が減っているということだと思います。

子どもの時、運動ができなくても大人になって運動をすればいいのではと思われるかもしれませんが、しかし、体力は生まれてから20年間で発達しますが、次の20年間で緩やかに低下し、その後は低下が激しくなると言われています。子どもの時、体をしっかり動かして体力をつけることが大切だということです。

学校や家庭、地域では、運動や外遊びに大切な要素である「3つの間」をバランス良く確保していくことが大切です。そのためには、私たち大人が子どもたちの体力向上を意識することで、子どもたちも遊びの中で運動能力や体力向上を図ることができるのではないのでしょうか。



表紙絵：小山 美咲（満濃中学校美術部3年）

次号予告
（8月1日発行）

特集

園・学校ウォッチング

SDGsと学校教育

満濃中学校・仲南こども園